



申13号

## 2023年度夏季手当等に関する申し入れ第1回団体交渉を行う！①



JR 東日本グループで働く組合員・社員の日々の弛まぬ努力により  
3期ぶりに黒字転換を果たした！  
今交渉は大きな期待と注目を受けていることを強く認識すべきだ！

### JR東労組の趣旨説明(要旨)

#### 支払能力は十分にある！

- ・ 期末連結決算はコロナ禍の影響から鉄道利用などが回復、JR運輸収入が約+3200億円となるなど、全セグメントが増収、全体でも2期連続の増収となり各損益は3期ぶりに黒字転換、フリーキャッシュ・フローが4期ぶりにプラスに転換した。
- ・ 次期の見通しは、当期比で売上高は12.1%増、営業利益は92%増と、見通しは明るいと言える。
- ・ 有利子負債の利息は減少、人件費は会社発足時から減少、純資産は1兆8000億円以上を維持。
- ・ GW輸送は、幹・在の主要16区間のご利用状況は、対前年比140%、2018年比91%など好調。

#### 生活実感・実態を直視すべきだ！

- ・ 4月の消費者物価指数は分野別で、生鮮食品をのぞく食料の9.0%上昇が目立ち、1976年5月以来、46年11カ月ぶりの上昇幅。今後も物価上昇は続き4月、5月に続き6月も3000品目以上、7月には2000品目以上の値上げが予定されている。また、電気料金も6月から値上げが決定した。
- ・ 厚労省は2022年度の毎月勤労統計調査で、実質賃金はマイナス1.8%と2年ぶりの減少。今年3月の実質賃金は前年同月比2.3%減で12ヶ月連続の減少と発表。厚労省は「賃金は伸びてはいるものの、物価高に追い付いていない状況が続いている」としている。
- ・ ベアは実施されたが、物価上昇に賃金が追いついていないのが実感と実態であり生活苦は続いている現実を会社は直視し、受け止めるべきだ！

#### 黒字転換の努力に報いるべきだ！

- ・ 会社発足以降最大の変革として示されている施策等が具体的に進み「融合と連携」等により多能化・複務化による更なる生産性向上が求められている。
- ・ 職場現実には、業務だけ現業に移管され要員が増えない。安全・サービスレベルを維持するための教育が課題となっている。
- ・ 会社は「連携が進んでいる」と言うが、現場は疲弊しているとの声にも表れているように、労働密度が高まり続けているのが実感・実態だ！

#### コロナ禍の努力に報いるべきだ！

- ・ コロナ禍の3年間、職場では懸命なコストダウンに努めてきた。
- ・ さらに2027年度1000億円到達に向けて、今ある技術でどこまでできるかの検討や、新しい技術を取り入れて、機械化施工によるコストダウンなど継続して奮闘してきている。

#### 安全と離職への危機感を持つべきだ！

- ・ JR東日本の採用数が年々減少、2021年度の若年退職者数は約600名と3年間で倍増の異常事態。
- ・ 医療現場含めて、系統問わずひっ迫した要員実態に苦勞しているとの声があげられている。
- ・ ジョブローテーションでは未だ会社の交渉回答にもある「納得感が施策のポイント」からも、かけ離れた運用が一部で行われて、体調を崩し職場に行けなくなってしまう事象が無くならない！

**組合員・社員の奮闘に応え、満額回答を強く求める！** その2へ